（学校番号220）　令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大宮東中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	⑴【知識・技能】自己の習熟度を把握し、学習方法や課題を「自ら選び、調整する力」 ⑵【思考・判断・表現】多様な考えや断片的な知識を「つなげ」、根拠をもって「深める力」 ⑶【学びに向かう力・人間性】デジタルでの振り返りを通して、自身の学びを客観視する「メタ認知能力」
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	⑴基礎層の底上げと上位層の伸長のため、授業の導入・終末や家庭学習において、生徒自身が習熟度に応じた課題を選択して取り組む時間を設定する。【各教科の日常的な授業内や家庭学習にて継続実施】 ⑵授業実践チームが作成したスライド等の「ひな型」を活用し、全教科において生徒同士がリアルタイムで意見を共有し、多様な考えをつなげて思考を深める場面を設定する。【週1回程度から各教科で実践】 ⑶ICT推進チームが定めた標準ルールに則り、授業の終末に学習支援ソフト等を用いた振り返り活動を全校共通の仕組みとして実施し、学びを客観視させる。【全教科において日常的に実施し、習慣化を図る】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	英語においては、全国平均を大きく上回った。また、学力の上位層を示すIRTバンド4以上の生徒が過半数を占めており、全体として高い英語力が身についていることが分かった。国語、数学においても、全国平均を上回り、全体として、各教科における基礎的・基本的な「知識・技能」は十分に定着していると言える。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	全体的に高い学力を有している一方で、相対的に正答率が低く、課題として着目すべき設問は共通して「思考・判断・表現」の要素を問う問題に集中している。 国語（書くこと領域）：「表現の効果を考えて描写することができるかどうか」や「話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く」などの情報を整理し、自身の考えを効果的に文章にまとめる表現力に課題がうかがえる。 数学（データの活用領域・数と式領域）：「数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」や「文字を使った証明方針の説明」などの論理的な筋道を立てて文章で説明する能力に伸びしろが見られる。 英語3技能（書くこと領域）：社会的な話題や日常的な話題について「考えとその理由を書く」記述式問題の正答率が、校内の他の問題と比較して低くなっている。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※） B	各教科において、生徒自身が習熟度に応じた課題を選択して取り組む「個の学び」の工夫や設定が実践できている。また、ICT端末のiPadへの移行後も、規定の標準ルールに則った適切な活用がなされている。 一方で、全国学力・学習状況調査においても課題として指摘された「思考・判断・表現」の育成に向けては、生徒が個の学びで習得した知識を基盤とし、それをグループワーク等で持ち寄って意見を交わす協働的な場面を、意図的に設定していくことが今後の課題である。
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

【参考データ】 ※記入任意	「重点的に育成する資質・能力」の状況をみる指標 ※この欄に記入した内容は、学校Webページには掲載しません。
全国学力・学習状況調査の調査問題・質問項目（内容・結果）	
さいたま市学習状況調査の調査問題・質問項目（内容・結果）	

※評　価
A　8割以上（達成）　　B　6割以上（おおむね達成）　　C　6割未満（あと一歩）